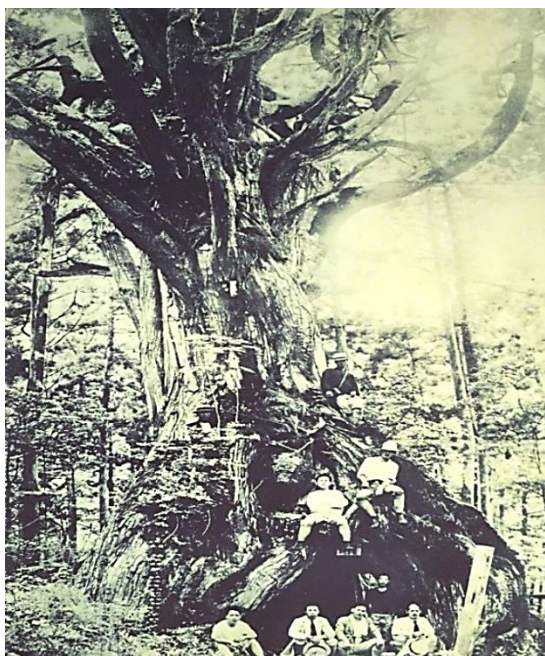


4 町のようすと、くらしのうつり変わり^か

奈半利には、「野根山街道」や「魚梁瀬森林鉄道」など、町の発てんに大きな役割を^{はた}した、大事な交通路がありました。



野根山街道の史跡「宿屋杉」



奈半利川を渡る魚梁瀬森林鉄道

昭和9年の室戸台風でたおれるまでは、
宿屋杉はこんなに大きかったようです。
樹齢は1000年以上にもなります。

六本松は、昭和4年ごろは松林が広がっていました。(左の写真) 昭和29年ごろには
貯木場になっています。海岸ぞいには、まだ堤防ができていません。(右の写真)



(1) むかしのようすを伝えるもの

コゴロク^{はいじ}廃寺

1979年(昭和54年)、藤村製絲株式会社の東の方の麓^{ふもと}とよばれるところで、水路^{すいろ}の工事^{こうじ}をしていたら、土の中^{ちのちゅう}からいろいろな物^{もの}が出てきました。古瓦^{ふるがわ}、礎石^{そせき}、須恵器^{すえき}、青磁^{せいじ}(中国^{ちゅうごく}の焼き物^{もの})で、なかでも特に多かったのは古瓦^{ふるがわ}でした。

その古瓦^{ふるがわ}は、同じころ(奈良時代中期^{ならじだいちゅうき})に建てられた土佐国分^{とさこくぶん}寺^じの瓦^{かわら}と模様^{もよう}や形^{かたち}がよく似^にていることから、コゴロク^{はいじ}廃寺^{はいじ}も同じ時代^{じだい}に建てられたと考えられます。

コゴロク^{はいじ}廃寺^{はいじ}は、安芸郡内の鎮護^{あきぐんないちんご}(あらしをせずめて敵^{てき}から守^{まも}ること)と五穀豊穰^{ごこくほうじょう}(米^{こめ}や麦^{こむぎ}、豆^{まめ}などの穀物^{こくもつ}がよく実^{みの}ること)を祈^{いの}るために、建てられたと考えられています。そのころ奈半利^{なはんり}に住^すむ人たちは、どんなくらしをしていたのでしょう。

野根山街道^{のねやまかいどう}の登り口^{のぼりぐち}にある中川原^{なかがわら}の水田^{すいでん}には、安芸郡^{あきぐん}で一番古^{いちばんふる}いコゴロク^{はいじ}廃寺^{はいじ}とよばれる奈良時代^{ならじだい}の寺^{てら}のいせき^{いせき}がありました。

平成11年^{へいせい}から発掘調査^{はつくつちようさ}がおこなわれて、近く^{ちかく}の窯^{かま}で焼^やかれた瓦^{かわら}がたくさん掘り出^ほされました。

他にも須恵器^{すえき}や土師器^{はじき}とよばれる土器^{どき}と、土で焼^やかれたあみのおもりなど、むかしの人のくらしがわかるものが見つ^みつかっています。



高知県立歴史民俗資料館^{れきし 民俗 しりょうかん てんじ}に展示^{てんじ}されている軒丸瓦^{のきまるがわら}

きのつらゆき せき ひ 紀貫之の石碑

「なはのとまり」の^{き ねん ひ}記念碑が
^{ちゆうざいしよ}駐在所の前にたっています。

それは、土佐の^{こくし にん}国司に任じら
れていた^{きのつらゆき}紀貫之がその^{にん}任をと
かれ、^{きよう}京へ帰るときに書いた
『^{と さ にっ き}土佐日記』に^{しる}記されています。



ろっぽんまつ とさ
六本松から見た土佐の海

『^{と さ にっ き}土佐日記』には、934年（^{じゆうへい}承平4年）12月26日、^{おお つ ふな で}大津を船出
して^{うら ど いっぱく}浦戸で一泊して、^{よくじつ}翌日「うらどよりこぎいでて、おほみなど
をおふ。」と^{しる}記されています。^{おおみなど}大湊では、^{なみ}風が強くて^{なみ}波が高かつ
たため、^{たいざい}船を出すことができず、10日間^{たいざい}滞在したそうです。

1月9日になって、「おほみなど
より、なはのとまりをおはんとて、
こぎいでて・・・」

そのころから
「^{な は とまり}奈半の泊」
は港として、よ
く知られてい
たそうです。



そして、1月10日には「なはの
とまりにとまりぬ。」と、^{とま}奈半利に泊ったことがわかります。

^{よくじつ}翌日、1月11日、「^{しゅっぱつ}あかつきにふねをいだして、^むおろつをおふ。」
と^{しゅっぱつ}奈半利を出発し、^む室戸に向かいました。

「なはのとまり」は「^{な は とまり}奈半の泊」のことですが、その^{ばしよ}場所は、
^{か こう ふ きん}奈半利川河口付近であるとされています。

の ね やまかいどう 野根山街道

かまくら じ だい つち み かどじょうこう と さ る ざい の ね やま
鎌倉時代に、土御門上皇が土佐の国へ流罪になった時、野根山
かいどう
街道を通ったといわれています。と さ りくじょうこうつう
土佐の国への陸上交通の東の入
口で、じゅうよう せきしよ いわ さ せき かいどう ちょう そ が べぐん
重要な関所（岩佐の関）はこの街道にあり、長宗我部軍が
あ わ いま とくしま しんげき みち
阿波（今の徳島）に進撃した道でもあります。

やまうちかつとよ と さ とのさま と さ
山内一豊（土佐の殿様）はこの道を通して土佐へ入り、奈半利
いっばく え ど じ だい さんきんこうたい
で一泊しました。その後、江戸時代には参勤交代の道としても、
つか
使われていました。

ぼくまつ と さ きんのうとう たけ ち ずいざん はんぺい た すく
また、幕末には土佐勤皇党の武市瑞山（半平太）を救うために
こうどう お に じゅうさん し の ね やまかいどう
行動を起こした、二十三士が通った道でもあります。野根山街道
きてん ふだ ぼ こうさつ ぼ
の起点は、札幌（高札幌）とされていますが、山道にさしかかる
おく ばんしよ やくしよ
手前に、奈半利送り番所という役所がおかれていました。

に り づか
二里塚



たびと
旅人の道しるべとなる塚が、今ものこっています。

やど や すぎ
宿屋杉



たびと
旅人4～5人が泊まれるほどの広さがありま

や な せ しんりんてつどう 魚梁瀬森林鉄道

さんだいすぎ や な せ こくゆうりん てんねんすぎ もくざい
日本三大杉のひとつ魚梁瀬国有林の天然杉は、おかしは木材を
いかだにして、安田川や奈半利川を利用して運んでいました。

めいじ しんりん き どう
1911年(明治44年)に、森林軌道
がつくられると、木材をトロ(トロ
ッコ)に積んで川に流し、帰りには
犬がトロを引き、田野貯木場から馬
路までの約21kmを運んでいました。



や な せ しんりんてつどう
魚梁瀬森林鉄道安田川線

めいじ しょう わ こう じ
明治の終わり(1911年ごろ)から昭和のはじめにかけて、工事が
すすめられてきた魚梁瀬森林鉄道は、1921年(大正10年)になる
と、安田川線が開通し、蒸気機関車で魚梁瀬から田野貯木場まで
運ぶことができるようになりました。

しょう わ たちおか てつどう ぜん
そして、1933年(昭和8年)、立岡-奈半利間に鉄道ができて、全
線(安田川線・奈半利川線)が完成しました。1942年(昭和17年)に



や な せ しんりんてつどう
魚梁瀬森林鉄道奈半利川線

は、奈半利と釈迦ヶ生の間にも鉄道
がつくられ、奈半利川線はさらにの
びました。全長は支線もふくめると
約250kmにもなるそうです。その後
は、もっと多くの魚梁瀬杉が運び出
されるようになりました。

や な せ しんりんてつどう じょう き き
魚梁瀬森林鉄道には、蒸気機

かんしゃ き かんしゃ
関車やガソリン機関車、ディー
ゼル機関車が走っていました。

もくざい
切り出された木材は、奈半利
ちよほくじょう ちよほくじょう はこ
貯木場や田野貯木場に運ばれ、
ひ の くち えき
そのころには、樋ノ口にも駅が
ありました。

や な せ しんりんてつどう ち い き す
魚梁瀬森林鉄道は地域に住む人
たちも利用できるように、連絡便
どうにゅう
が導入され、人々の生活にも欠か
せないものでした。

しかし、1957年（しょう わ 32年）に、や な せ けんせつ
魚梁瀬ダムが建設されること
になって廃止が決まり、6年後の1963年（しょう わ 38年）、や な せ しんりん
てつどう はい し き
鉄道は廃止されました。



しょう わ ひ の くち えき
昭和30年ごろの樋ノ口駅

き かんしゃ しゅうり こうじょう うんゆ じ むしょ
機関車修理工場や運輸事務所があつて、
たくさんの人が、はたらいしていました。

しんりんてつどう せんろ
森林鉄道の線路のあ
とは、ひ の くち ほうおんじ
樋ノ口から法恩寺
まで舗装されて、今は道
ろ路になっています。



てつどう はい し
鉄道は廃止されました。

こうして、なはんり へってん
奈半利の発展に
やくわり は きゅう や な
大きな役割を果たした旧魚梁
せ しんりんてつどう し せつ き しょ
瀬森林鉄道施設（9基5か所）
は、2009年（へいせい 21年）に、くに
し ていじゅうようぶん か ざい し てい
指定重要文化財として指定さ
れることになりました。

(2) うつり^か変わる町とくらし

むかし^{どうぐ}の道具

なはくんとりこちゃんは、むかしの生活のようすを知るために、

高田屋^{たかだや}や高知県立青少年センター^{せいしょうねん}に見学に行きました。今の生活^{つか}では、使^{つか}わないものや見られないものが、たくさんありました。



高田屋^{たかだや}には、むかしの生活^{つか}で使^{つか}われていたものが、たくさんあります。

おじいさんやおばあさんが使^{つか}ったことのない、古いものもあるそうです。

青少年センター^{せいしょうねん}では、むかしの道具^{どうぐ}を使^{つか}って、生活^{たいけん}を体験することができました。

今の便利な道具^{べんり どうぐ}とはちがいますが、多くの工夫^{くふう}があることがわかりました。



[高田屋^{たかだや}のくらにある所^{しょう}ぞう品^{ひん}]



かべかけ電話



懐中電灯^{かいちゅうでんとう}



カメラ



箱ぜん^{はこ}（一人用のおぜん）



江戸時代のお金^{えどじだい}



台帳^{だいちょう}

高田屋^{たかだや}では、古^しいくらが資料館^{しりょうかん}になっています。100年くらい前のかべかけ電話や懐中電灯^{かいちゅうでんとう}、カメラ、箱ぜん^{はこ}、江戸時代のお金^{えどじだい}や、[※]しょうのうを売^うっていたころの台帳^{だいちょう}ものこされています。

※ しょうのう：クスノキから作られた防虫・防臭剤^{ぼうちゅう ぼうしゅうざい}



うすきね
臼と杵



リヤカー

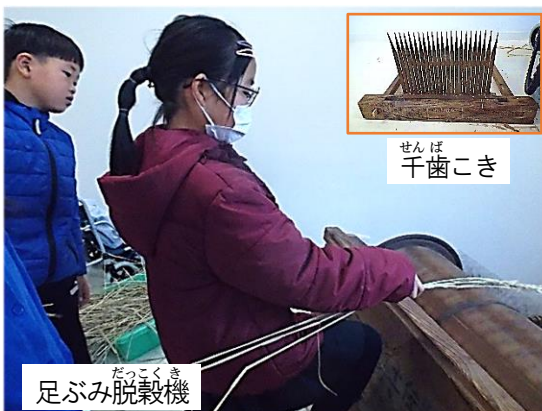
せいしょうねん
青少年センターでは、おかしの道具どうぐの使い方つかを聞いたり、実さ
いに道具どうぐを使ってみたりしました。

「道具どうぐは手作りの物ものばかりで、おどろきました。」

「リヤカーは、物ものをたくさん積つんで運はこぶとき便利べんりだね。」

「子どもたちも、家の仕事しごとを手伝てつだっていたそうだよ。」

せいしょうねん
青少年センターには、おかし使つかわれていた道具どうぐがたくさんあり
ましたが、体験たいけんしてみてもみ取り作業てさぎようが多かったことがわかりました。



せんば
千歯こき

だっくき
足ぶみ脱穀機

せんば
千歯こきから足ぶみ脱穀機だっくきにかわって、
もみ取り作業とさぎようが、速く楽はやになりました。



なわ
縄ない機

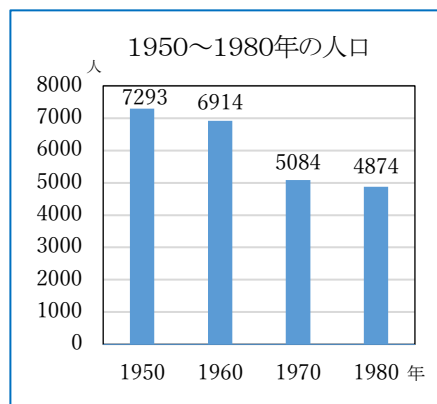
なわ
縄ない機きは、もみを取った後のわらとを
ななって、縄なわを作る機械きかいです。

しょう わ 昭和のころ

① 人や町のように



や な せ し ん り ん て つ ど う
奈半利川をわたる魚梁瀬森林鉄道



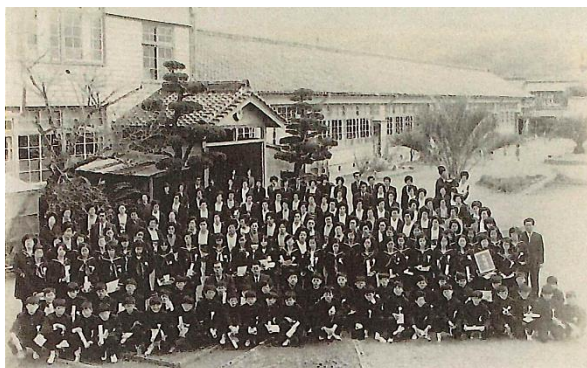
じんこう
奈半利町の人口のうつり変わり



むかしの奈半利小学校



むかしの旧加領郷小学校



奈半利小学校卒業記念（昭和46年度）

むかしは町には人も多く、
さか 栄えていましたが、しょう わ こう
半から人口がへってきました。

しょう わ しん り ん て つ
「昭和の中ごろまで森林鉄
どう と お 道が通っていて、多くの木材
は こ や人を運んでいたんだね。」

きゅう
「奈半利小学校と旧加領郷
小学校のむかしの校舎は、木
でできた建物だったんだ。」

い じょう そつぎょうせい
「50年以上前には、卒業生
も多かったんだね。先生たち
も多くいたんだろうな。」

② 人々のくらし

むかしのくらしを体験しました。

「道具は、木で作られているものが多いね。おけは、細い板をぴったり組み合わせて、細くてうすい竹で回りをしばって作っているんだ。」



「電気やガス・水道のない時代は、手作りの道具で工夫して生活していたんだね。むかしの人の知恵はすごいなあ。」



これは「しちりん」という道具です。中に炭を入れて、のせた網の上に食べ物をおいて、焼くことができます。下の方にある小さいまどは空気の出入り口で、火加減を調節したりするときに使われます。アジのひらきがふっくら焼き上がり、身もやわらかく、ごはんといっしょに、おいしくいただきました。



青い小さい石けんと、タライと洗たく板を使って、ゴシゴシもみ洗いしました。だんだん汚れが落ちて、白くなりました。



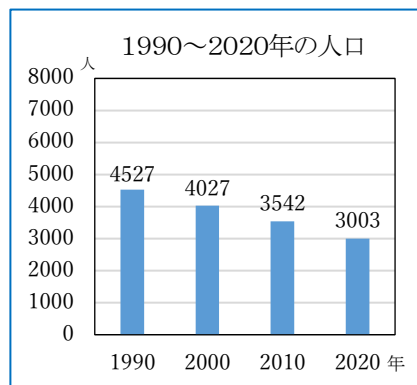
1回目のすすぎでは水が白くにごりましたが、2回目はとう明のままで、汚れもすっきり落ちて、きれいに洗いあがりました。

へいせい 平成のころ

① 人や町のようす



まちやくば ちやうしゃぞうかいちく
町役場庁舎増改築（平成6年）



じんこう
奈半利町の人口のうつりかわり



かいぎちう
ごめん・なはり線の開業（平成14年）



どうろ かいちう
北川奈半利道路の開通（平成15年）

へいせい まちやくば
平成のころには、町役場や
よねがおか た
米ヶ岡分校が建てかえられた
り、北川村との間に自動車専
じ どうしゃせん
用道路が開通し、町のようす
ようどう ろ かいちう
にも変化が見られました。

また、「ごめん・なはり線」
かいぎちう えき
の開業によって、奈半利に駅
ができました。

えき しゅうへん いんしょくてん おお
駅の周辺には、飲食店や大
がた とくさんひん はんばいてん
型スーパー、特産品の販売店
などができて、町のにぎわい
の中心になっています。

② 人々の暮らし



空気もきれいにできるエアコン



画質のよい大画面テレビ



ドラム式洗たく機



人工知能を使って掃除をするロボット掃除機

電化製品の性能が向上し、人々の暮らしがとても便利になってきたのは、平成のころです。

エアコンは快適な温度にするだけでなく、空気もきれいにしたり、きれいな画面のテレビや、少ない水で洗える洗たく機などもできました。

さらに、電化製品は少ない電力で動くものに改良され、電気料金も節約できるようになりました。

自動車にも進んだ技術が取り入れられ、ガソリンと電気を使って走るハイブリッド車や、電気だけで走る電気自動車もできました。



ハイブリッド車



電気自動車の充電用しせつ

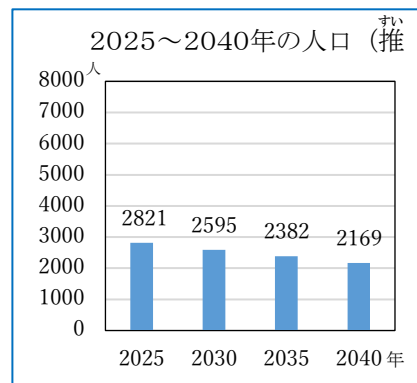
これからの奈半利町

わたしたちの生活は、むかしのころに比べると、電気やガス・水道が使える、物もふえて、とても便利になりました。

しかし、奈半利町の人口は3000人を切り、最も多いころと比べると、半分以上少なくなっています。子どもの数

もへり、今後も年々人口がへっていくことが予測されます。

そのような中、町の人々が豊かなくらしを送るために、町はどんなことに取り組んだり、計画したりしているのでしょうか。



奈半利町の人口のうつり変わり

役場をたずねて、職員の方に話を聞きました。

子育てをしやすい町



「子どもは地域の宝」と言われますが、奈半利町にとって大事な子どもたちの数がへってきています。

町では、子育てしやすい環境づくりや、家庭への支援をしています。町の未

来を担う子どもたちが安心してくらし、のびのび育ち、一人一人が夢をかなえられるように、取り組みを進めています。

楽しんでもらえる町



自然^{し ぜん}豊かな奈半利の町には、見どころがたくさんあります。おいしいものも、体験^{たい けん}できることもいっぱいあり、楽しんでもらえます。

ホームページで「奈半利」を調べると、「行ってみたいな」、「これ、おいしそう」、「おもしろそう、やってみたい！」をたくさん見つけることができます。ぜひ「奈半利」を検索^{けん さく}してみてください。

— 皆さんの「知らない奈半利」が、見つかるかも …

移^{うつ}り住^すみやすい町

奈半利は子どもの数がへり、町全体^{ぜん たい}の人口^{じんこう}もへってきています。

今後も人口^{じんこう}は、へり続けていくと考え^{つづ}られています。町では、他の^{ほか}県^{ち い き}や地域^{ち い き}の方に、奈半利のことを知



ってもらい、移^すり住^すんでもらえるように対策^{たい さく}を考えています。

町の自然^{し ぜん}をはだで感^{かん}じてもらい、町のよさを知^{く ふう}ってもらうために、工夫^{く ふう}した取り組み^{と きり組み}を進^{すす}めています。

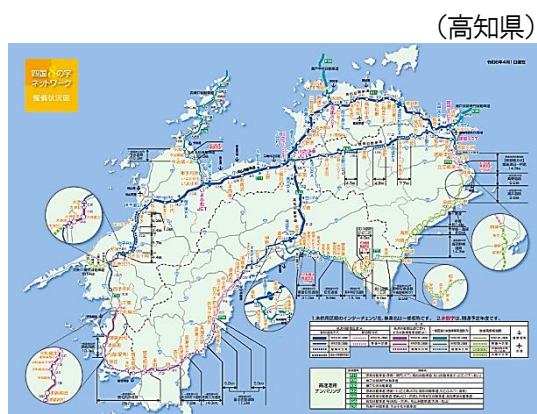
来てもらやすい町

「ごめん・なはり線」の開通で、
便利になった奈半利ですが、道路
の整備も進んでいます。

「北川奈半利道路」の東西に自
動車道がのびることが計画されて

います。道路ができると、高知市や徳島方面への行き来が速くなるだけでなく、四国の各県への移動もとても速く、便利になります。

県内外から、多くの人が奈半利に来てくれるようになりそうですね。



と 取り組みや計画していることを、教えてもらいました。

- 子育てがしやすいように、取り組んでいます。
 - これから親になる人が、子育てについて相談できます。(育児学級など)
 - 乳幼児の一時あずかりをします。(あったかふれあいセンター)
 - 放課後に児童をあずかります。(みんなのおうち)
 - こども園の保育費・教育費は必要ありません。
 - 高校を卒業するまで、医療費がかかりません。
 - 大学に進学した人に、奨学金を出しています。
- 多くの人に、町を楽しんでもらえるようにしています。
 - 観光や体験できる活動を、ホームページなどでらせています。
 - 山田さん家のあじさいや、平のコスモス畑は見どころです。
 - 港まつりでは、3500発の花火が打ち上げられます。
 - 海浜センターで、海の活動やキャンプを楽しめます。
 - 生活体験学校で、むかしながらの生活が体験できます。
 - なはり観光フェスは、ショーや多くの出店があります。



- 町に移り住んでもらえるように、取り組んでいます。
 - ・「移住フェア」などに行き、奈半利のよさを知ってもらっています。
 - ・「移住体験モニターハウス」に泊まり、奈半利の生活を体験してもらえます。
 - ・町内の空き家を調査し、「空き家バンク」に登録してもらっています。
 - ・移り住みたい人に、ホームページなどで空き家を紹介しています。
 - ・地域おこし協力隊に住んでもらい、「地域協力活動」をしてもらっています。
 - ・地域おこし協力隊には、活動期間が終わっても住み続けてもらっています。
- 他の市町村や他の県との行き来が、しやすくなります。
 - ・「四国8の字ネットワーク」で、自動車道をつくるのが計画されています。
 - ・自動車道の開通後に、奈半利に来てもらえるように取り組んでいます。
 - ・「海浜センター」をリニューアルオープンしました。
 - ・町の資源を活用して、プログラムを開発しています。(町めぐりなど)
 - ・飲食店といっしょに、商品の企画・開発をしています。(ご当地グルメなど)
 - ・自動車道が開通すると、次のようなメリットもあります。
 - ・災害が起きたときに、避難したり、物の運搬に使用できます。
 - ・短時間で病院に救急搬送でき、病人やけが人を救うことができます。
 - ・農産物や水産物など物の行き来がふえ、町の産業がさかんになります。



- ・奈半利町は、子どもを育てやすい町なんだ。ぼくたち、知らなかった。
- ・海浜センターでは、シュノーケリングやカヤックができるそうだよ。
- ・住みやすくするために、奈半利町ではいろいろな取り組みを計画しているね。



- ・ほかの町や県と行き来しやすくするために、道路がつくられているんだ。
- ・奈半利のまわりの町には、どんな場所があるんだろう。知りたいなあ。
- ・わたしたちにも、自分たちの町のためにできることはないかなあ…。



奈半利町役場の宮地さんの話

役場では、人口減少対策や防災対策など、たくさんの問題に対して、いろいろな取り組みを行っています。

町民のみなさんが住みやすい町づくり、また町外に住んでいる人が、奈半利町をすきになってもらえるような町づくりをめざしています。